

第109話「影の学習」

in the shade of family tree

木陰の物語

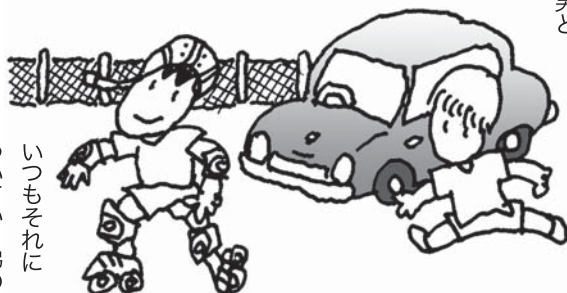


団 士郎

六歳差で妹が生まれるまで、我が家は、二人兄弟だった。



幼い頃からいろいろいるなことにアンテナを巡らして向かっていく長男と、



いつもそれに
ついていく弟の
仲良し兄弟。

まだ五歳と

三歳くらい

の頃だっただろうか。



夕太は
出すん
やぞ



「今、果物なんて食べてないだろう?」
とは思ったが、
何も言わなかった。

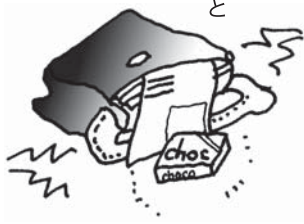


気付いたのは、
また同じことが
起きたからだった。

当時私は、
チョコレートを、
よくカバンに入れていた。



子ども達は
それを見つけると
声を揃えて
「ちょうだい、
ちょうだい！」
とやかましい。



そんなわけで食べていたのは、
一粒ずつ与えたアーモンドチョコ。



弟はチョコを舐め終わると

「タネ！」
と言って口から
アーモンドを出す。



それを兄が
受け取っていた。



兄が後から、
こそっと美味しく食べていたのは
言うまでもない。

食物の中の
種や異物は
飲み込まずに出す。

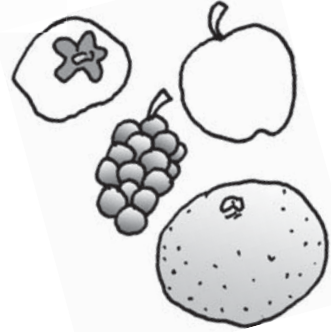


これは幼児に
身につけさせる習慣だ。

「種は出すー！」
そう教えることが多い。



ブドウ、桃、
枇杷、柿、西瓜、
夏みかん e.t.c.



いろんな
果肉の中にある
硬いものは
種だと学ぶ。



アーモンドチョコレートは
種はありません!



その時、
こんな解説はしない。

みんな
クルマ



これが
学習の一般化だ。

アーモンドチョコレコを
貰ったのに、
チョコしか
食べていなかった。



これを発見して、
利益に
結びつけたのが
兄だった。



このいごときを、子どもは
学校に入るとたくさん学ぶ。

弟がそれに気づくまで、
イソップ童話にでも
ありそうに、
兄は弟のアーモンドを
食べ続けた。



学ぶことで
不利益から
自分を守る
力をつける。



賢明さ
だネ



けっして
ずる賢さではない。

近年の振り込め詐欺被害を
みていると、



被害者にならないために、
高齢者が学ぶべきことが
あると思う。



詐欺師が居なくなったら、
老人は安心して暮らせる



居ても騙されない人はある。



先日、我が家に
警察署からと名乗る
電話があった。



振り込め詐欺集団の
一斉検挙で、
あなたの個人情報
含まれていて
確認したいという。



変な話だと思ったら
これが詐欺電話だった。



騙されない
学びは大切だ。

